

培良タイムス

平成31年1月11日(金)

10号

ホームページアドレス

<http://www.kyotanabe.ed.jp/nc21/bairyo-jh/>

京田辺市立培良中学校

TEL 62-9363

全国学力・学習状況調査の結果(3年生4月実施)より

校長 山下 博史

4月に3年生で実施した標記の調査結果が返却されてきました。この調査は、毎年、3年生を対象に、「(全国、京都府、京田辺市の)生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」ことや、「学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的に行われています。

本年度は、国語A、国語B、数学A、数学B、理科の5つと、生活習慣や学校環境に関する質問紙調査が行われました。(Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題。)結果から見てきた本校生徒の特徴と取組についてお知らせします。

【話す・聞かが伸びつつある国語】

全体の平均正答率でみると、国語は、全国平均や京都府平均(以下府平均と記述)とほぼ同じ水準である状況です。A問題、B問題とで、特に大きな差はありません。項目の中では、特に『読む能力』が高い傾向にあります。(本校80%⇔府平均77%)これは、『読書時間1時間以上の割合』(本校30%⇔府平均25%)が高いことから朝読書の地道な取組の成果としてあげられると思います。

一方で『書く能力』がやや府平均よりも低い傾向にあります。(本校73%⇔府平均75%)本校では、国語の授業だけでなく、道徳や学活の時間などを使い感想を書く機会を設けていますが、授業だけでなく普段より書く習慣と自信をつけていく必要があると感じています。書き方の構成等においては、入学試験に向けての対策や国語の小論文作りの学習等に活かしていきたいと思います。

今後もさらに、生徒の興味・関心を伸ばしながら、授業の中で、個に応じたきめ細かな指導を進めるとともに、基礎・基本の上に、生徒が主体的・対話的で深い学びがある授業改善を進めていきたいと思っています。

【基礎・基本を大切にすべき数学】

平均正答率でみると、全国・府平均にやや及ばない状況です。特にAの主として基礎基本を問う問題の『数と式』の項目で全国・府との差が出ています。(67%⇔府平均72%)一方でBの活用・応用に関する問題はあまり差がありません。平均正答率の入学以来の推移については、入学時や、2年生時の診断テスト結果と比べると、毎回、確実に差が縮まっています。一方で数学への苦手意識を持つ生徒も府平均よりも多くいるのも現状です。

現在3年生においては、終わりの会の前における終学習や補習などを活用し、計算問題を中心に数学の基本を見直す取組も行っています。授業においても1・2年生の内容を振り返るなど基礎基本を徹底できる取組をおこなっていきけるよう改善を目指していきます。

【日常生活で意識を持たせたい理科】

今回、久々に行われた理科の平均正答率は、数学と同様、全国・府平均にやや及ばない状況です。正答率の分布状況は、平均付近に多くの生徒が集まる、府平均とよく似た分布でした。ただ『理科が好き』と答えた生徒は、府平均とほぼ同じ(55%⇔府平均56%)で変わりはないのですが、理科に対する苦手意識や日常生活で活かされているかという点では府平均にやや及んでいません。新聞等で、中学生の理科離れが報道されていますが、その傾向も感じられます。授業等では電子黒板を使用し、化学の仕組みや生物の特徴に関してなどの詳しい説明を行ったりしていますが、今後は実験環境を整えたり、理科の楽しさや生活上との関連を大切に授業改善を進めていきたいと考えています。

【質問紙からわかる培良中学生の特徴】

☆成果が大きい家庭学習、自主的な学習☆

この数年、力を入れて指導してきたことを、生徒諸君が肯定的にとらえて、頑張ってくれていることが、特徴の一つです。1年入学時より、各授業で出る宿題以外に、家庭学習ノート(自主学习)を確実にやりきる指導をしてきました。その習慣がしっかりと身についています。もちろん、ご家庭のご協力のおかげと感謝しております。この毎日の地道な取組が、学力向上に大きく寄与しています。その結果、『家で計画を立てて学習している。』(51%⇔府平均48%)『家で予習・復習をしている。』(66%⇔府平均47%)『家で学校の宿題をしている。』(93%⇔府平均90%)等、軒並み京都府平均を上回り、しっかりと自主的に学習する状況が生まれています。今後も、授業と家庭学習をさらに連動させ、『質の高い家庭学習』ができるように指導していきたいと思います。



☆培良中学生の課題☆

『住んでいる地域の行事に参加している。』(40%⇔府平均41%)、『地域社会でボランティアに参加したことがある』(58%⇔府平均65%)、『課外活動などで地域のことを調べたり、地域の人と関わる機会があったか』(64%⇔府平均68%)など地域や社会への関心が低いことが気になります。社会科や道徳などを通じ、より地域社会を身近に感じられるようにしていきたいと考えています。ご家庭でも、地域のことや社会の動きなどを話題にしていいただければありがたいです。来年度は、教育目標に「社会貢献できる」という文言を加え、一層地域社会に興味・関心を持たせていきたいと考えています。

『自分には良いところがある。』(66%⇔府平均68%)、『将来の夢や希望がある。』(71%⇔府平均71%)等、やや自己肯定感が低い現状がうかがえます。謙虚な生徒が多い傾向にあるのかと思いますが、実際は、学習の状況等、頑張っている人が多く、もっと自分自身に自信を持ってほしいと思います。学級活動や道徳の時間に、自己肯定感が育つような取組をさらに加えていきたいと思っています。これ以外にも、多様な課題に対し、学校でも様々な取組をさらに進めてまいりますが、ご家庭でもお子様とよく話し合っただき、子どもたちが有意義な中学校時代を送れるようにご協力をお願いいたします。



【今後も培良スタンダードの大切さと更なる発展を目指して】

今回の調査で、生徒自身が一定、学習を自主的に行い、授業の振り返りや宿題を続けていることが見てとれました。これは授業改善の取組が大きくかかわっていることがあげられると思います。これらは、わかりやすい授業を創造するために、教職員で研修を深めて作成した『培良学習スタンダード』に負うところが大きいと思います。一方で、理数を中心に興味を持つ生徒は多いものの、基礎基本の定着や活用の問題の正答率が平均よりも下回っている現状もあります。普段の授業改善を各教科で進めるとともに、『スタンダードの更なる発展と変革』も考えていかなければならないと感じています。今年度はユニバーサルデザインを意識した授業づくりで、黒板周辺の環境整備や教室環境の改善、電子黒板などのICTを重視した授業を取り組んできました。今年度末には振り返りを行うとともに、更なるスタンダードの発展にむけて努力していきたいと思っています。今後も職員一同授業改善を進め、楽しく、わかりやすい授業を目指していきます。

